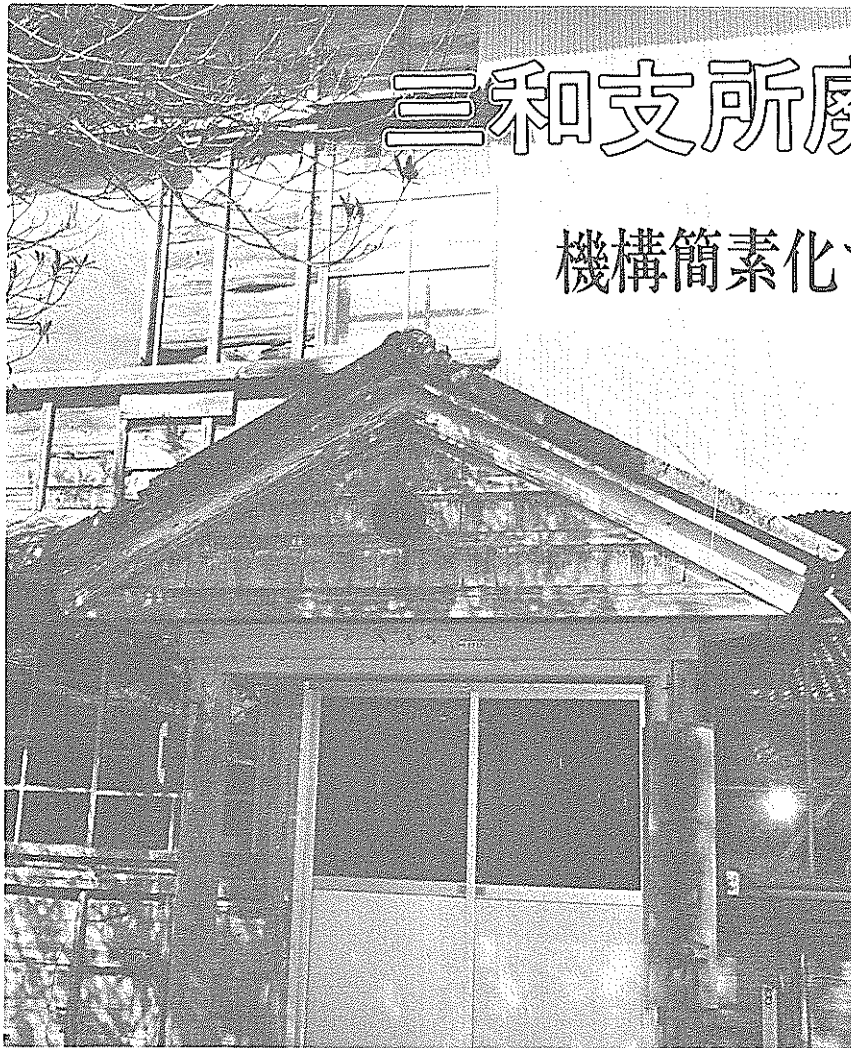




三和支所廃止へ

機構簡素化で財政再建

財政難が深刻になっている南国市ですが、市役所首脳は、機構の効率化と財政再建のために「支所廃止」を決め、とりあえず、三和支所を四月五日から廃止（四月三日午前中まで取扱）する意向で二月十一日、三和地区公民館で地元のみなさん十四名（地区総戸数約五百）が参加して、話し合われました。

支所の存廃は、条例で定められているため、三月議会で議決され決まります。

話し合いは、まず、小笠原市長が「新年度から、三和支所を廃止して、その仕事を本庁に移すご相談に伺いました。感情的には、なかなか賛成していただけないのは、と心配していますが、世帯が大きくなるに従って仕事も複雑になり、昔は簡単に済んだものが、多くの手続きが必要になってきました。行政改革でも、官庁の簡素化がいられています。どうかみなさんも機構の簡素化にご協力をお願いします」とあいさつ。

続いて、「廃止」の方針決定に至る経過の説明が次のようにされました。

①支所では、戸籍、住民登録、印鑑証明の仕事をずっとしてきたが、国民健康保険や国民年金、老人医療、福祉医療などの手続事務が多くなって、支所だけでは済まずに、本庁まで来なくてはならないことも増えている。

②財政再建のために機構の簡素化をはかる。約五百万円の節減になる。田約二百五十ヘクタール分の固定資産税に相当する。

③距離的に見ても、三和地区より遠い久枝（本庁との距離約八キロメートル）がずっと本庁へ来ている。三和支所管内では、稲生が六キロメートル、前浜が七キロメートルで三和はこれより少し近いと言え、なんとか理解できる範囲内にあり

はしないか。（稲生、三和両地区は、五十一年当時、三和支所廃止を大すじで了解している）

④建物が古くなっているため、危険だし、書類の保管などにも問題が残る。

質疑では

○利用者としては、不便になることは困る。住民の便宜をはかるのが行政の仕事だ。市役所の都合で廃止するのは納得できない。

本来、支所をもっと整備したり増やすべきだ。

●白木谷、黒滝のように、非常に遠いところもあり、比較論ではあるが、なんとか辛抱願えるのではないだろうか。

○他の支所も廃止するのか。なぜ三和支所が最初に廃止なのか。

●方針としては、全支所廃止です。一度に廃止するのも問題があるので、まず、距離の近い三和支所からということ。

○もし廃止された場合、本庁の駐車場が確保できるのか。

●それはちゃんと確保します。

―など、約二時間にわたって話し合われましたが、再建と住民サービスを天びんかけなければならぬ「南国市の苦しさ」みたいなものが感じられた会でした。